

## 六郷満山

六郷満山という言葉は国東半島の歴史と文化を理解するのに大切な言葉です。文字で読む限りは「6つの山岳地域」という意味のようですが、実際には半島一帯に数多く点在する寺院群の総称なのです。その寺院群には、山腹にある特定の岩から仏教の学問の本山まで、幅広い仏教施設が含まれます。

8世紀から9世紀に至る時代のある時期に、密教が日本古来の神道信仰と共存するようになりました。近隣の宇佐神宮がその最初の場所ではなかったかとされています。その後年月を経て、教義や教訓の折衷的な組み合わせが進化していきました。仏教の寺院は神道の神社と空間を共有し、仏教文字が神道の辞書に吸収されるまでにもなり、またその逆のパターンも起こるようになりました。

国東半島にはかつて半島一体に65の寺院が点在しており、その中心となる活動は学問、修行、布教の三活動に分かれていました。現在でも31の寺院とともに、六郷満山文化の長い歴史を思い起こさせる宗教的、霊的な雰囲気が残っています。